2008年12月1日発行　早 蕨　第428号（昭和62年2月21日第三種郵便物認可）

さわらび
ホームページ　http://www.sawarabi.or.jp

みんなの力でみんなの幸せを

sawarabi さわらび

12 December 2008 vol.428

医学講話► 消えたノーベル医学・生理学賞第一号
老人保健施設ジュゲム施設長
（東京大学元助教授）　金井　芳之

特　集► さわらび会の2008年を振り返る

医学講話

消えたノーベル医学・生理学賞第一号

ジュゲム施設長
東京大学㊊助教授
日本リウマチ学会
評議員・指導医
金井 芳之

はじめに

去る十月、４人の日本人（一人は現在米国国籍）がノーベル賞を受賞したことで、このところの社会状況が低迷していた日本に一条の希望の光が走った。注目すべきことは受賞の対象になった研究成果が受賞に至るまで約４０年の風雪を経たということである。研究の世界も意外に保守的で、常識にそぐわない新発見が出現した場合、それを歓迎するよりむしろ否定しようとする傾向がある。

その中にあって、新発見または理論に興味を抱き追試験をしたり、それを進展してくれるグループの出現もみられる。それによって当初の発見の重要性の裏付けや、関連発見がある。その良い例が「蛍光蛋白質の発見とその応用」で今回のノーベル賞に浴した下村博士である。蛍光蛋白質の発光機序や分子生物学への応用と、その評価はむしろ後続研究グループの研究に負うところが大きい。

ノーベル賞の対象になった最初の研究業績から、ノーベル賞と評価されるまでに掛かった年月を日本人に例を取ってみると、１９８７年、「免疫グロブリン可変部の遺伝子組み換え機構」で受賞した利根川博士が約１０年、２００１年受賞の野依博士の「不斉合成のための触媒分子」が約２０年、利根川博士のケースは例外で、いずれも受賞までには大変な時間が掛かっている。

一方、ノーベル賞級の業績を残しながら、受賞を逸したり、また他人の手に渡ってしまう例もある。そういう例が日本人だけでも2～3名はいたかも知れない。受賞には時代背景や「運」も大きく関わってくるのだ。

今回は温故知新、日本人とノーベル賞について、私となじみのある事象を気ままに綴ってみた。

消えたノーベル賞日本人第一号

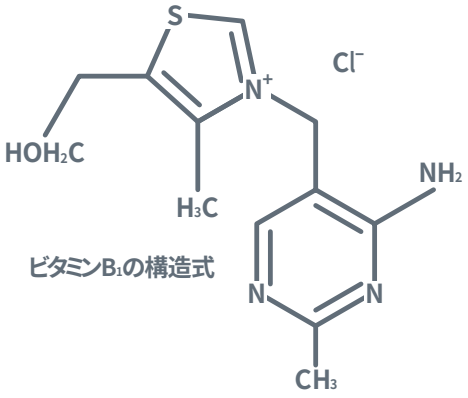
今から百年ほど前の日本の医学界では、最も優れた医学徒は細菌学に終結した。その一人に北里柴三郎がいた。東京医学校（東京大学医学部の前身）を通例の二倍かけて修了した北里は、先見の明あってドイツのコッホ研究所に留学、ベーリング博士との共同研究の機会を得た。そのころ致死病であった破傷風の研究で、破傷風菌の神経毒素を抑える、所謂抗毒素の産生に成功した。これが現在の「抗体」の起源である。

その意味では、前述の１９８７年、「免疫グロブリン可変部の遺伝子組み換え機構」でノーベル賞を受賞した利根川博士を合わせると、抗体分子の研究では、日本人が百年の最初と最後を飾ったことになる。偉大な業績である。

少し横道にそれたが、ベーリングは抗毒素の研究で１９０１年、第一回ノーベル医学賞を受賞した。本来は北里とベーリングが共同で受賞する筈であったが、東京医学校の細菌学の権威らの反発で北里の受賞を妨害したと聞いている。今から見れば実に皮肉な話である。

脚気とビタミンB1

北里がノーベル賞から外された理由は、おおまか次のようなものである。１９世紀の終わり頃、脚気（かっけ）が蔓延し、多くの兵士が脚気に罹り、兵力が低下した。そのため、その病因解明が国家的急務であった。前述の東京医学校の細菌学の権威らは細菌説を提唱し、兵舎などの衛生管理を強化した。一方、民間上がりの高木兼寛（海軍軍医総監で東京慈恵会医科大学学祖）は食餌説を提唱



ビタミンB₁の構造式

した。それを証明すべく高木は二隻の海軍練習船に、一方は日本食、他方は西洋食を積んで遠洋航海を実践した。その結果、西洋食を積んだ練習船からの脚気の発症は皆無であった。北里は高木の食餌説を支持した為、東京医学校の権威側から強い反感をかった。これがノーベル賞から北里が排除された所以と言われている。なお高木の遠洋航海の結果はその詳細が「Lancet」に掲載されている。

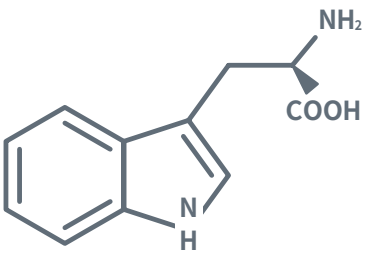
その後、鈴木梅太郎によって米糠から抗脚気因子が単離され、オリザニンと命名された。これが現在のビタミンB₁である。ビタミンB₁の化学構造の研究では、ドイツのウィンドウスが1928年にノーベル化学賞を受賞したが、ほぼ同時期に独立に同様の成果を挙げた医学者がいた。牧野堅である。生体に欠かせない高エネルギー燐酸化合物、ATPの構造を明らかにし、かつワトソン・クリックのDNA（核酸）の螺旋構造の発見に先んじてトリプレット説を提唱したのも牧野である。ちなみに牧野博士は満州生まれで、出発は内科医で熊本大学医学部、東京慈恵会医科大学の教授を歴任された。天才学者であったが無冠の帝王であった。

トリプトファンの代謝と酸素添加酵素

今から約30年程前、生化学会が開かれる十月になると、今年こそノーベル賞は早石修先生（京都大学教授・現名誉教授）だと、大変な噂になったことを想いだす。早石先生への期待は、その後十年程は続いていたと思う。その研究とは「酸素添加酵素」であった。呼吸によって生体に取り込まれた酸素は二つの作用がある。一つはエネルギー産生、もう一つは様々な物質に取り込まれて、有用な別の物質を作り出すことである。後者が酸素添加酵素によるものである。

50年前は生物の生体酸化は分子状の酸素が加わるのではなく、水分子の酸素原子が加わって水素がとれる、所謂脱水素反応が定説であった。ところが早石博士は空気中の酸素分子をトリプトファンに直接取り込む酵素があることを発見し、それを酸素添加酵素（オキシゲナーゼ）と命名した。つまり生体酸化には脱水素反応の他に、酸素添加反応があることを初めて証明し、教科書を塗り替えたのである。

今ではトリプトファン2,3-ジオキシゲナーゼと呼ばれている。つまりトリプトファンは脱炭酸酵素などでセロトニンやメラトニンへ転換されるだけでなく、キヌレニン酸や核酸の前駆体であり、エネルギー供与に重要なNADに転換されることが分かった。生体内にはオキシゲナーゼの基質はトリプトファン以外にも多種あり、日常臨床ではアラキドン酸がある。おなじみのCOX-1やCOX-2つまりシクロオキシゲナーゼという酸素添加酵素が、アラキドン酸からプロスタグランジンへの転換を触媒している。COX-2の阻害剤は消化器への副作用が少なく、かつ大腸ガンの予防にもなることで、アメリカでは一世を風靡したほどである。これも50年前の早石先生の大発見の賜物である。



トリプトファンの構造式

おわりに

ノーベル賞が全てではないものの、正当に評価されれば、来年も日本人にノーベル賞が輝くのは決して夢ではない。

長寿医学研究所

研究通信

news of study

Vol. 12

福祉村病院長寿医学研究所　副所長

赤津　裕康

【海洋深層水1】

今回は「朝のことば」でもちょっとご紹介させていただいた富山湾の海洋深層水のお話をいたします。

これは経済産業省主導で二年前に富山県の海洋深層水関連の研究を公募した地域イノベーション事業の一貫として組まれたものです。富山のグループに福祉村病院が入っているのはちょっとおかしいのですが、たまたまこれは発案者の富山大医学部臨床病理の常山幸一准教授にご懇意にしていただいていたことがきっかけです。私は常山先生の頼みならばといったところが正直あったのですが、実は紹介された常山先生も当初その効果の程には確信がまったくなかったようです。

しかしながら昨年度の褥瘡の洗浄液として海洋深層水を用いた治験では、一部の看護師の方々も実感しておられるように効果を見出す事ができました。特に浅い皮膚ビランにはその効果は目を見張るものがありました。この海洋水は富山湾の三〇〇m以深のところから採水し、富山の製薬会社の五州薬品㈱が加工しています。深層の海洋水は元来より表層の海洋水とは成分が違うとは言われており、特に富山湾は北アルプスの雪解け水が大量に流れ込み、また温度的にも常に2℃と安定で、これまでの調査ではミネラルや栄養塩が豊富であることが判ってきました。水産業ではすでに冷水性魚介類の養殖に適すことがわかっており汎用されています。今回の発想は沖縄の会社が深層水を使った「鮮度液」というものを販売していて、その売り文句が、この液体につけておけば魚の鮮度が長く保たれる、というものでそれなら病理に使えるのでは？ということでマウスの肝臓で試してみて、思いの他良い結果を得たというのが最初の様です。

そこで、ためしに褥瘡をテーマにしては、ということで培養系は富山大薬学で、動物実験は和歌山県立医大法医学で、そして臨床は福祉村病院でと言う事でチームが組まれました。いずれの結果も驚くほどの好成績で、我々の興味は一体何が効いているか、という事に絞られてきました。そこで今年は浜松医大分子解剖の瀬藤教授のグループに分析をお願いしたところ、生理活性を認める物質が多く含まれており、褥瘡他の創傷治療に効果があってもおかしくないと言う裏づけが取れつつあります。

褥瘡の洗浄は日本褥瘡学会のガイドライン等によれば生理食塩水、水道水を用いることが推奨されています。その目的は創部を洗浄し、分泌物、壊死物質、古い外用剤を除去することにありますが、今回の我々の研究により、洗浄時より積極的に治療に介入していくことができるのではないか、これにより褥瘡での洗浄概念を変えることができるのではないかと考えております。

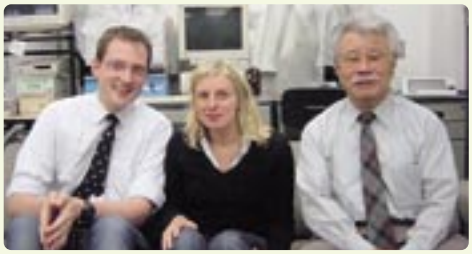
◉長寿研トピックス

去る、十一月十一日（火）、ドイツ・ミュンスター大学の助教、ヤイプマン先生が「脳腫瘍の遺伝子モデルとしてのショウジョウバエのさなぎの脳の研究」についてのセミナーを行われました。

ヤイプマン先生は、堀映名誉所長がドイツで教授をされている頃からのお知り合いで、堀先生が彼女へ神経病理学の症例の助言をされてみえました。

今回は、婚約者のホールディング先生（同大学・助教）が京都大学の脳外科との共同研究のため来日されたので、ヤイプマン先生も堀先生に助言をいただきたいと標本を持って来日されました。

● 今回セミナーを行ったワイプマン先生（中央）とホールディング先生（左）



さわらび大学レポート

◉2008年11月27日講義

福祉の場面における レクリエーションの効果

豊橋レクリエーション協会会長
阿部 弘子

レクリエーションって何?と問われたら皆さんはどうお答えになるでしょうか。右片麻痺になった母を自宅介護した十六年間の経験からレクとは生活全部であると思いました。衣食住すべての面をいろいろと工夫しながらの介護で、発想の転換を身につけ、大変と思われがちな介護が今では貴重な体験になっています。

スプーンで物をすくってもこぼれない食器、右手だけでできる手芸などなど、スポーツ感覚、仕事感覚の自宅でのリハビリを考案しました。介護の間に笑って話せるレクの仲間やその活動があったことも、介護への心の持ち方を前向きにしました。

レクで人が変わった・笑った・輝いた!

レクリエーションの道を歩んで四十六年になりますが、たくさんの感動とハプニングを体験してきました。昭和五十五年頃から山本病院で毎週金曜日に、認知症の方達四十数名とレクの時間を持っていたときのことです。最初は表情がなく、笑うことの少ない皆さんでしたが、半年もすると顔に表情が現れ、手遊びの時に笑顔が見られるようになりました。

クリスマスの行事のことです。特殊なライトで美しい紙芝居を見てもらった後、「聖夜」を私が独りで歌い出したとき、どこからか「サイレント・ナイト」と英語の歌が聞こえてきたのです。見ると、いつもはレクには参加せず無言で徘徊を繰り返していた方でした。私も最後まで一緒に歌いました。忘れられない感動のひと時でした。

日頃、この方は話をしないと思っていた病院の職員を始め、みんな驚きました。非日常的なレク・プログラムの中から生まれた行動でしたが、彼女の過去につながる思い出があったのかもしれません。

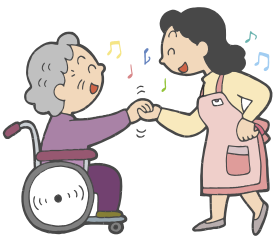
それ以来彼女は私に話しかけてきてくれ、レクの輪の中に入り、ダンスの時など跳んで跳ねて参加してくれました。

また、平成九年から続けているあかね荘の語り部活動も「みんなの声がききたい」をテーマに努力しています。字の読めない方も、言葉を発声しなかった方もゆっくり練習してきました。言葉が出たときは、一対一で練習をしてきた本人も、ボランティア、職員も心から喜びました。まだまだですが確実に成果は上がっています。

レクリエーションは生きる喜び

こんな感動や、現場の話もしながら、毎年レクの大切さを伝えるいくつかの講座を担当しています。講座をきっかけに、笑いのある楽しい毎日を過ごしている方がたくさんいます。子ども達や、仲間、地域、福祉、介護予防のためにそれぞれの場で、やりがいと感動をもらって活動をしています。レクリエーションは、人と人とのコミュニケーションをうまく作る手段でもあります。

年齢を忘れ、ストレスを解消し、笑うことで健康も増進され、こんなすばらしい生活はないでしょう。メンバーは好奇心に燃え、心身とも若いのです。自分が楽しく燃えてこそ、人も楽しく燃えるのです。ただ生きるより、うまく生きよう、うまく生きるよりすばらしく生きようと、共に歩んでいます。みんな今が青春と胸を張って毎日を送っています。そして私にも若さをプレゼントしてくれます。「レクリエーションは、生きる喜び」です。



第27回

さわらび文化祭

～人にやさしく、地球にやさしく～

● 花井俊典様（右）に感謝状を贈呈させて頂きました

11月3日に行われた今年のさわらび文化祭は、「人にやさしく・地球にやさしく」がテーマでした。多くの地域の方にご参加頂き、大変賑やかで楽しい文化祭となりました。

ご協力頂きました関係者の皆様ありがとうございました。

オープニングでは、豊橋市杉山町に貴重な土地をご寄付頂いた花井俊典様に、山本孝之理事長より感謝状を贈呈致しました。さわらび会は今後、花井様のご意志に沿って、地域の皆様のお役に立てるような施設群を創り上げていく決意であることをお伝えさせて頂きました。

また「人にやさしい福祉の仕事」のビデオ上映では、さわらび会で働く職員にスポットをあて、福祉の仕事の素晴らしさを改めてご理解頂ける機会となりました。

引き続き行われた福祉村公園での舞台発表は、明日香の太鼓演奏に始まり各施設の利用者の方々による発表が行われ大変盛り上がりました。

各施設の体験企画も子どもたちを中心に人気が高く、楽しい一日となりました。

◎ 福祉の仕事パネル展

◎ 明日香太鼓

障害者の外出を考える

公共施設のバリアフリー化や福祉車輌の普及などによって、障害者の外出機会も少しずつ増えてきています。更に障害者自立支援法の中で移動支援（ガイドヘルプ）事業が制度化され、障害者の外出は一段と進んでいます。

移動支援事業の課題

障害者の外出を支える移動支援事業ですが、多くの課題も抱えています。

①ヘルパーの質の問題

障害者の外出には多くの危険が潜んでいます。以前は移動支援を行うためには、ガイドヘルパーの資格が必要でしたが、現在は介護福祉士、ホームヘルパーの資格があれば移動支援を行うことができます。そのため外出支援に関する専門性が不足しがちになっています。

②対象者の問題

対象者は、市町村において決められており、豊橋市においては

(1)屋外での移動に著しい制限のある視覚障害者（児）

(2)全身性障害者（児）（身障手帳1種1級の四肢麻痺）で、重度訪問介護の支給決定がされていない者

(3)知的障害者（児）

(4)精神障害者（児）

(5)その他、市長が特に必要と認めた者

とされており、特に身体障害者について制限があります。

③入所施設利用者は使えない

現在この移動支援事業は在宅障害者が対象であり、入所施設利用者は使えません。このままでは入所施設利用者は社会から孤立し、施設から地域生活へという流れに逆行してしまいます。入所施設の利用者の方も同じように利用出来ることを望んでいます。

誰もが住みやすい街作りを

障害者自立支援法では各市町村に「地域自立支援協議会」を設置し、そこで多くの分野の皆さんが集まり、課題を集積し、検討する事になっています。豊橋市でも豊橋市自立支援協議会がすでに設置されており、珠藻荘、あかね荘の支援センターが委員として参加させて頂いております。

その中で移動支援にかかる前述の②③番の内容について問題提起をさせて頂き、検討を頂いた結果、豊橋市においてはこの内容について前向きに改善して行くという回答を頂いております。今後も自立支援協議会において問題提起をさせて頂きながら障害を持った方々が普通に、安心して暮らせる町作りのお手伝いをして行きたいと思います。（江川）

●さわらび大学での稲垣さんと江川施設長による講義の様子

◆当事者の声

今から考えると昔の外出は、私たち障害者にとって本当に出かけることが難しかったです。買い物などに出かける時、「留守番出来る?」と聞かれ「一緒に行きたい」と言うと家族の人達が、車に私達を移乗させてからトランクに車椅子を乗せて買い物に行くのですが、そのどこかで「疲れた」と一言出ていました。この言葉は障害を持ち、人の介護に頼らなくてはいけない私にとっては本当に悲しい言葉でした。

今では、車椅子のままで車に乗って買い物や映画館に出掛ける事が出来、駅などもバリアフリー化され、昔より随分出掛けやすいです。しかし、私達が出かける時には人のお手伝いが必用です。私達の体調や障害に常に配慮してくれる支援者がより充実し、安心して外出できる事が望みです。

（珠藻荘自治会長　稲垣ひとみ）

特集

さわらび会の2008年を振り返る

さわらび会では、今年も「みんなの力で、みんなの幸せを」の考えのもと、ご利用者やご家族、そして地域のみなさまの幸せと安心の実現のためにさまざまな取り組みをしてきました。
今回の特集では、2008年のさわらび会の活動の一部を紹介します。

利用者、施設を支える家族会の取り組み

利用者の皆さんにより良い支援をしていくためには、ご家族の協力は、なくてはならないものです。

第二さわらび荘では、家族会と共催して「バイキング食事会」を総会開催時に併せて実施しました。いつもと違う雰囲気の中、ホテルで食事をしているように自分で好きな物を選んでいただくことを目的に、昼食を兼ねて1階のホールにて利用者やご家族同士の交流の場として、皆さんにお食事を楽しんでいただきました。初めての試みでしたが、43家族、延べ133名の方が参加され、大盛況でした。

また、明日香の家族会では、自主製品の作成でお母さん方が活躍して下さるのはもちろんですが、「甘夏みかん」の手入れ、収穫などの農作業では、お父さん方が大きな力を見せてくれます。

今回、明日香家族会から有志のお父さん方が中心となり、すばらしい物置小屋を提供していただきました。田原地内にある畑への作業効率を考えた、一緒に汗を流すお父さんならではのものです。

●ご提供いただいた物置小屋

この様に家族会の様々なご協力なくしては、利用者の方へ本当に良い支援は出来ません。利用者・ご家族の皆様の期待に沿えるよう、今後も家族会と協力しながら、より良い支援ができるように取り組んでゆきたいと思います。

新体系への移行

障害者自立支援法の施行に伴い、さわらび会の障害者施設も新体系への移行を行いました。しろがね（平成18年）、珠藻荘（平成19年）に続き、今年4月に明日香、10月にあかね荘がそれぞれ、利用者のニーズに合った事業へと移行しました。

明日香では、将来就職を目指している方から年を取って少しずつ介護が必要になってきた方など様々な方が一緒に活動をしてきました。そこで、今回の移行で3つの事業でサービスを提供することにより、一人ひとりのニーズに合わせてサービスを選択することができるようになりました。

●プラネットでの実習の様子

また、あかね荘では、入所している方のサービスが日中のサービスと夜間のサービスに分けることができるようになったため、今まで1日中あかね荘で活動されていた方が、将来の地域移行を目指して、日中は明日香を利用して、就労の訓練を行っている方もいます。また、中で活動されている方も新体系に移行したことで、散歩に出掛けたり、文化教室を楽しんだりと充実した日中活動を送ることが出来ています。

地域との交流

さわらび会では、地域との交流をとても大切にしています。

さわらび荘では、認知症高齢者とその家族を地域で見守り応援する認知症サポーターの養成講座を豊橋市からの依頼により8回開催し、187名の方が受講されました。さわらび荘からはキャラバンメイト（養成指導者）として3名の職員を派遣しております。

受講者は、市役所職員、看護学生、鉄道やタクシー会社職員の方たちでした。講座を受けた方から「これからは偏見なく認知症の方たちと関わっていきたいです」という感想が聞かれました。

若菜荘では、毎年地域の保育園や小学校の皆さんとの交流が続いています。中には、20年以上に渡る交流が続いている小学校もあります。核家族化や少子化などで子供自身が社会性や創造性を身につける機会が減少してきている時代の中で、若菜荘に来て、利用者と交流を深めることで、子どもさんの健全育成の推進に役立てばと願っております。

●認知症サポーター養成講座の様子

また、若菜荘の利用者も、福祉村内の自主的な清掃活動に加え、施設から出て、この地域の役に立ちたいとの思いから、神社清掃を定期的に行っております。私達が出来るほんの小さな事ですが、僅かでも地域に貢献できていると自負し毎月続けております。

今後も、この地域との繋がりを大事にしてゆきたいと思います。

自治会活動

珠藻荘では、施設開所の翌年からご利用者が珠藻荘を自主的に運営するために自治会が組織されましたが、今年は、その歴史で初の女性会長として、稲垣ひとみさんが就任をされました。

「一部の人達だけの意見ではなく、皆さんの意見を採り入れた運営を心がけたい」と精力的に活動されています。今年は、『障害者の思いを地域の皆さんにも伝えていきたい』ということで、市議会議員の皆さんとの朝食懇談会に出席したり、さわらび大学での講師も務められています。

更に、豊橋市より「まちづくり出前講座」の講師として依頼を受け、市内の小中学校で市の職員と共に福祉教育にも協力をされています。

珠藻荘の中だけではなく、地域全体の障害者福祉の向上を目指して、稲垣さんと自治会の活動は益々活発になっています。

●二川中学で講演する珠藻荘自治会長　稲垣ひとみさん（左）

［前進し続けた男］

2008年を語る。

ルノーテストドライバーからGP2参戦、そしてGP2アジアシリーズへ…。
今年大きく躍進した左近選手が今の心境を語った。

2008年を振り返る

2008年シーズンは、左近選手にとって大きな飛躍の年となった。

振り返ると今年はING ルノーF1チームのテストディベロップメントドライバーとして招聘され、チームを支える役割を担うことから始まる。

ルノーでは年間王者に2年連続で輝いたフェルナンド・アロンソ選手、ネルソン・ピケjr選手などのトップ選手のマシン開発を担当した。

またルノーが行うロードショーにおいてはF1カーのR27に乗って公道やサーキットを疾走、世界中にF1の魅力を伝えた。

そして7月から、再びレースの舞台に躍り出ることになる。

GP2参戦！

待望の舞台はGP2。名門ART グランプリから電撃参戦が決まった！左近選手が所属することになったチームは、2008年F1シリーズチャンピオンに輝いたあのルイス・ハミルトン選手も在籍したことがあり、GP2開始初年度から上位にある名門である。

ドイツGPから、シート合わせもままならないまま、全くのテスト走行なしの参戦にもかかわらず12位完走（26台中）。ハンガリーGPにおいては4位入賞。マシントラブル等に悩まされながらも、各GP2レースで幾度となく上位を脅かし、その走りのパフォーマンス、適応能力の高さに関係者も驚きを隠せなかった。

来年に向けて

GP2アジアシリーズは来春まで続く。次の戦いの舞台は、アラブ首長国連邦のドバイで12月5、6日に行われる予定である。

左近選手は、先に行われたシリーズ初戦上海GPにおいて第一レースを3位表彰台、第二レースではファステストラップをたたき出し

SAKON

た。そのパフォーマンスの高さに、レース関係者から寄せられる期待は大きい。

アジアシリーズが始まる前に、左近選手は「ＡＲＴグランプリというトップチームでアジアシリーズを開幕戦から戦える事を嬉しく思う。この機会を与えてくれたチームと関係者、そして応援してくれているファンの皆さんに感謝したい。目標であるシリーズチャンピオンを捕るべくチーム一丸となって最大限努力していきたい。」とコメントしている。

ＧＰ２でのシリーズチャンピオンを目指して、好スタートを切った左近選手。来年も熱いレースを魅せてくれるに違いない。

● Photograph by ART GRAND PRIX

境内の秋深まりて菊揃い

晩秋十一月ともなると、名だたる神社の境内には全国から手塩にかけた鉢植えの菊の花が奉納される。それを想いつつ今年初詣でした明治神宮にふと足が向いた。案の定奉納された数々の丹精込めて創った鉢植えの菊の花に接することが出来た。初詣での雑踏とは違って、周囲の人たちに気づかうことなく菊と供に厳かな境内の雰囲気を堪能出来た。都会の真ん中にあって、紅葉した巨木は菊の花と相まって日本の情緒を醸し出していた。ここ数十年で一変した社会環境に抗するが如く、鉢植えの菊は旧来のたたずまいを踏襲し、凛とした姿を誇示していた。

さわらび日記

（H20・10・16～11・15）

■福祉村病院・ジュゲム

10月16日 第一病棟・さくら通り病棟家族会
17日 病院幹部会（理事長出席）
新城市社会福祉協議会主催の認知症予防講演会にて伊苅弘之副院長が「認知症の予防」について講演
18日 街頭募金に理事長参加
21日 長岡福祉会が福祉村の見学
22日 市公会堂にて「高齢者の感染症」について院長講演
23日 大阪日総研主催の公開セミナーにて伊苅弘之院長が「認知症ケアマスター」について講義
さわらび大学「失語症について」言語聴覚士 本橋夕貴
24日 瑞穂保健所主催の認知症予防講演会にて伊苅弘之副院長が「認知症の予防」について講演
26日 認知症の人と家族の会三重県支部主催の若年期認知症の講演会にて伊苅弘之副院長が「認知症の人への正しい理解と対応」について講演
28日 野依健康教室にて松山先生講演
橋詰先生によるCPC（理事長出席）
11月3日 早蕨編集会議（理事長出席）
5日 福祉村文化祭（理事長出席）
7日 社会保険集団指導講習会（ライフポート）に理事長出席
グループホーム仮称平川荘起工式（理事長出席）
豊川保健所認知症キャラバンメイト養成研修会にて伊苅弘之副院長が「認知症の基礎知識と対応方法」について講義
10日 施設長会議（ジュゲム）に理事長出席
11日 豊橋みなとライオンズクラブ例会（こどもミュゲム幹部会）に理事長出席
愛知県看護協会主催の認知症研究会にて伊苅弘之副院長が「認知障害を伴う高齢者の看護」について講義
12日 ジュゲム家族会（理事長出席）
13日 朝食情報交換会
さわらび大学「障害者の外出支援について」珠藻荘施設長江川和郎・自治会長稲垣ひとみ
14日 病院幹部会（理事長出席）
新城市社会福祉協議会主催の認知症予防講演会にて伊苅弘之副院長が「認知症の具体的な介護と対応」について講演

■さわらび荘

10月16日 介護認定審査会（施設長 市役所）
難病医療ネットワーク三河ブロック連絡会（浅見・本江 市民病院）
17日 全国老施協地域ケアセミナー（白井 東京～18日）
20日 地域包括支援センター業務打合せ会（松下・浅見・本江 市役所）
21日 ケアマネ部会（白井 名古屋）

■第二さわらび荘・カサデローザ

10月20日 認定審査会（長坂 豊橋市役所）
16日 全国老施協緊急拡大正副会長・委員長会議（山本施設長 東京）
県社協訪問介護研修（野崎 名古屋）
介護福祉士養成実習指導者特別研修企画委員会（山本施設長 名古屋）
長岡福祉会見学
22日 豊橋市介護保険関係事業者連絡会研修会（山本施設長・鈴木・野崎・牧野・西崎・若山・加藤・横山・鈴木仁・藤沢 豊橋）
愛知県認知症グループホーム連絡協議会東三河ブロック会議（山本施設長 豊橋）
23日 愛老協役員会（山本施設長 長久手）
27日 県社協高齢者福祉事業連絡部会施設長研修会（山本施設長 名古屋）
28日 愛老協介護士研修（松原 名古屋）
29日 全老施協女性フォーラム（山本施設長・奈良施設長・牧野・野崎・山本 東京～31日）
30日 認定審査会（長坂 豊橋市役所）
在宅医療福祉部会議
特養不在者投票

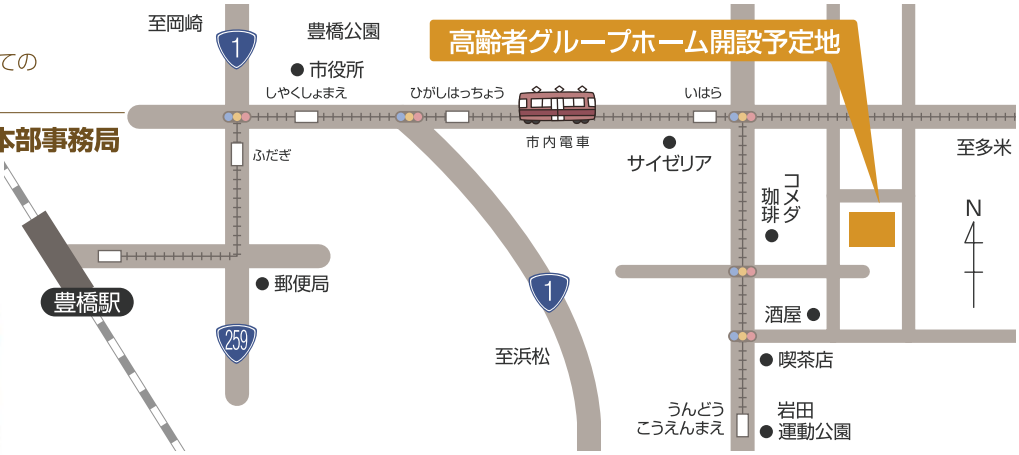
11月4日 豊橋市介護保険事業者連絡会全体会（施設長・白井・浅見・本江・渡辺・小野・鈴木あ 市公会堂）
中部中学校体験学習
愛知県認知症グループホーム連絡協議会東三河ブロック会議（施設長・白井有 あいトピア）
愛知県認知症グループホーム連絡協議会臨時役員会（施設長 名古屋）
職種別地域ケア会議（本江 つつじが丘）
愛知県社会福祉協議会施設長研修会（施設長 名古屋）
県老施協介護士研修（加藤 名古屋）
在宅医療福祉部会（施設長・松下 第二さわらび荘）
全国老施協女性フォーラム（藤原・田沼 東京～31日）
県老施協ケアマネジャー研修（本江 名古屋）
インフルエンザ予防接種実施（理事長来荘）
愛知県認知症グループホーム連絡協議会
全国大会実行委員会（施設長 名古屋）
豊橋市長選挙不在者投票
5日 県老施協栄養士研修（柴田美 名古屋）
6日 日本介護支援協会研修（本江 横浜～7日）
7日 県老施協ユニットケア研修（富岡 名古屋）
8日 ストーマのセミナー（小野 市民病院）
9日 青陵地区市民館祭（松下）
11日 県老施協施設長会議（施設長 名古屋）
介護の日フォーラム（施設長・白井 名古屋）
12日 介護給付費支給審査（施設長 市役所）
県老施協調理員研修（山本 名古屋）
13日 介護認定審査会（施設長 市役所）
14日 在宅医療福祉部会（施設長・藤原・松下・白井 第二さわらび荘）
東部中学校体験学習

高齢者グループホーム整備推進

さわらび会高齢者グループホーム（2ユニット定員十八名）は、十一月七日に起工式が行われ、交通至便で閑静な住宅地である豊橋中央地域（平川本町一丁目）に来年三月の開設を目指して、整備が推進されています。

木造で明るい家庭的な雰囲気の生活空間は、ご利用の皆様の心を和ませ、専門スタッフが快適で安全な介護サービスを提供させていただきます。

● 11月7日に執り行われた起工式の様子



ご利用及びスタッフ募集等についてのお問い合わせ先

社会福祉法人さわらび会本部事務局
（担当　土井まで）
☎0532-54-3501

5日　豊橋市介護保険事業計画検討委員会（山本施設長　豊橋）
ケアハウス不在者投票
愛老協栄養士研修（玉森　名古屋）
7日　新城市民生委員見学
平川グループホーム起工式（山本施設長、奈良施設長）
県社協福祉教育推進部会（長坂　名古屋）
11日　愛老協施設長会議・介護の日愛知フォーラム（山本施設長、奈良施設長）
13日　朝食懇談会（山本施設長）
愛老協調理員研修（菰田　名古屋）
認定審査会（長坂　豊橋市役所）
14日　愛知県社会福祉大会処理委員会（山本施設長　名古屋）

■珠藻荘
10月17日　支援センター主催「在宅障害者のための料理教室」（あいトピア）
20日　家族会役員会
21日　福井県身体障害者施設協議会より見学
22日　サービス管理責任者研修（田中・鈴木　名古屋）
中部中学校体験学習
23日　進路指導関係諸機関連絡会（田中　豊橋養護学校）
28日　相談支援従事者研修にて講師（松井　～29日）
相談支援従事者研修（高松）
29日　牟呂中学校体験学習
30日　夜間想定防災訓練
全国老施協女性フォーラム（施設長・鈴木　東京　～31日）
11月4日　町づくり出前講座にて講演（田中　岩田小学校）
5日　不在者投票
10日　立命館大学より介護体験1名受け入れ（～14日）
田原福祉専門学校より介護実習3名受け入れ（～12月6日）
11日　浜松市浜北区民生委員見学

■若菜荘
10月16日　県高齢福祉部（施設長　名古屋）
20日　豊橋保健所衛生監視
22日　中部中学校体験学習
27日　県老施協役員会（施設長　長久手）
29日　牟呂中学校体験学習
30日　全国老施協女性フォーラム（施設長・大谷　東京　～31日）
31日　各階別会議
11月5日　豊橋市長選不在者投票
6日　若菜会役員会　全国老施協施設推進委員会軽費・ケアワーキングチーム会議（施設長　東京）
7日　若菜会地域活動日
10日　食生活会議
11日　若菜会公園清掃日
県老施協施設長会議（施設長　名古屋）
12日　懇談会
13日　高豊中学校職場体験学習（～15日）
14日　県老施協調理員研修（浅岡　名古屋）
高根小学校交流会

■あかね荘
10月16日　福祉協会県職員研究大会事前会議（施設長　名古屋）
17日　家族会芋掘り
粗大ゴミ回収
20日　健康診断（～23日）
高師台中学校職業体験
22日　保健所監査
中部中学校体験学習
サービス管理責任者研修（中陳・高橋　名古屋）
28日　理容奉仕（浅倉さん）
29日　牟呂中学校体験学習
ふれあいアート展（施設長　名古屋）
生活サポート協会役員会（施設長　名古屋）
30日　全国老施協女性フォーラム（柳・小田　東京～31日）
11月4日　愛知県職員研修会準備会（施設長　名古屋）
7日　就労支援会議
9日　障害児者とボラの集いに参加

■明日香
10月16日　地域就業支援講座（末松）
17日　田原福祉専門学校文化祭にて太鼓の演奏
18日　豊橋まつりにて販売
たっぷく祭にて販売
20日　高師台中学校職場体験受け入れ（～24日）
21日　福井県身障協議会見学受け入れ
22日　ボランティアセンター運営委員会（鈴木）
サービス管理責任者研修（施設長・林　名古屋）
30日　全国老施協女性フォーラム（施設長・藤井陽　東京　～31日）
11月6日　サービス管理責任者研修（施設長　名古屋　～7日）
地域就業支援基礎講座（末松）
10日　自治会
高師台中学校職場体験受け入れ（～12日）
11日　浜北区障害福祉部見学受け入れ
14日　東部中学校体験学習受け入れ
田原中学校体験学習受け入れ

■しろがね
10月21日　高師台中学校体験学習　6名
TFM合唱団
23日　中部中学校体験学習　4名
24日　高師台中学校体験学習　4名
29日　牟呂中学校体験学習　3名
療育支援研修会（一宮）住吉
30日　全国老施協女性フォーラム　石黒
11月10日　TFM合唱団
11日　さなえ会のおやつ奉仕

■各施設共通
11月3日　文化祭
5日　中部福祉専門学校見学
11日　福祉村クリーン運動
13日　朝食情報交換会

いかり先生の

「お遍路さん」

～四国八十八ヶ所霊場めぐり～

第29回

台風直撃　足摺岬

福祉村病院　副院長
伊苅弘之

第三十七番岩本寺から、四国最南端の足摺岬にある第三十八番札所蹉跎山金剛福寺へ。この間九〇キロ、徒歩で二八時間、車で二時間三〇分。

私たちは行程の途中にある宿から出発したが、平成一五年八月八日は朝から雨と風が強い。午前中に台風一八号が四国の足摺岬付近に上陸するらしい。「危ないから今日は休むかね」と私。「せっかく来たのだから、まわりましょう」と母。

宿から金剛福寺まで約四〇キロ。一時間もあれば着く距離だ。しかし、世の中にこんなことがあるものか。車の前方の視界は時速一〇キロ程度で走っても、ワイパーをいくら速くしても、一、二メートル前方しか見えない。雨が激しく車に当たり、大声で話さないと聞こえない。なぜか雨漏りするのではないかと心配になった。

三時間かかって寺の駐車場に着いた。しかし、雨と風が強く、車の扉を開ける勇気が出ない。とても外を歩ける状況ではない。しばらく待つこと三〇分。雨と風が少しだけ弱まった。勇気を出して外に出たが、傘は裏返り、まっすぐ歩けない。中二の娘は転倒した。ものが飛んできて怪我をするようで恐ろしい。「生きて帰れるのだろうか」ふっと思った。

本堂の前のお札を入れる箱も横に倒してあり、お札を入れられない。「箱を起こすの手伝って」と母。重い箱が少しだけ上がったところからお札をこじ入れた。社務所には人が一人いたが、他にはひとりも参拝者はいない。看板やごみが道の上を横に飛んでいくので、風を避けられる場所で、なんとか写真を二枚だけ撮った。「参拝者は私たちだけだったと思ったのに、お参りしていた人がいたのだね」と母。写真を撮った私は、他の参拝者がいるかどうかを気にする余裕はなかった。

さわらび ホットスナップ

11月16日（日）にさわらび会職員の交流の一環として、ソフトバレーボール大会が行われました。優勝は、前回に引き続き、ブループラネット（第二さわらび荘）でした。

「自分のできることでみんなの役立ちたい」と毎日落葉の清掃をしてくださる若菜荘の山田浅吉さん。

さわらび会後援会寄附ご芳名

平成20年10月15日～11月14日

10,000円
5,000円
16,000円
30,000円
90,000円
10,000円
5,000円
5,000円
1,000円
10,000円
10,000円
10,000円
10,000円
10,000円
10,000円
10,000円
10,000円
10,000円
10,000円
10,000円
10,000円
10,000円
10,000円
4,000円
473,762円
10,000円

その他匿名希望多数の方よりご寄附頂きました。

計　779,762円

現在までにご寄附いただきました金額は

822,731,172円

インド福祉村協会寄附ご芳名

平成20年10月11日～11月10日

3,500円
50,000円
300,000円
5,000円
5,000円

計　363,500円

募金方法（インド福祉村）

■振込先　郵便局 ゆうちょ銀行・振替口座
口座番号00830-2-65008　加入者名 インド福祉村協会

■連絡先　軽費老人ホーム若菜荘　℡0532-48-1138まで

お礼コーナー　ありがとうございました

※印は豊橋善意銀行を通して

▼日本レコード協会様　CD寄贈（珠藻荘）**▼山光青果様**　りんご寄贈※（各施設）

▼山本英雄様　花の苗・野菜寄贈（しろがね）

さわらび会のわ　リレーコラム　Vol.11

福祉村障害福祉サービス事業所しろがね

施設長　**石黒　稔**

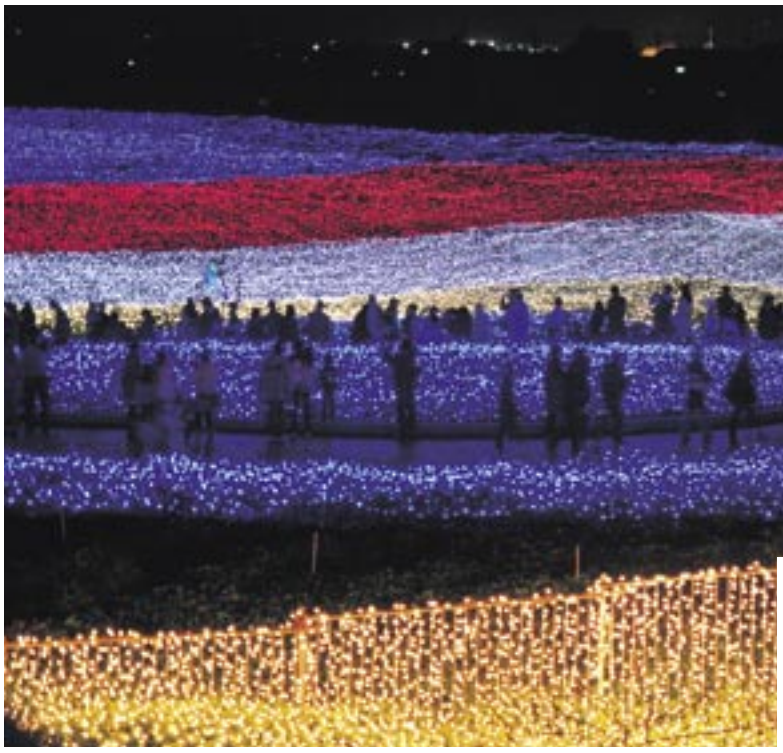
毎年お正月に、家族で北陸の金沢へ帰省します。今年は夏に兄より顔を出すように言われ、久々に夏の帰省をしました。ゲリラ豪雨で五十数年ぶりに市内を流れる浅野川の氾濫があった二週間ほど後です。浅野川周辺にはまだその爪痕が残っており、川縁は美しい芝生の散歩道だったものが、泥で埋まり、土手より五十センチ程のフェンスにも流れてきたものが絡まっている状態でした。浅野川はおとなしい川だとの印象があったため、その凶変ぶりには驚かされます。

家から歩いて十分程の所にテレビでもよくみかける「ひがし茶屋街」があります。朝ひとりで一時間ほど、その界隈を散歩しました。多くの観光客が来ており、昔の素朴なイメージから観光地化された様子に驚かされます。家から浅野川沿いに一時間ほど、散歩する中で四軒の銭湯が残っているのにも驚かされました。高齢者向けに銭湯券が配られているとも聞きました。いい社交場になっているようです。金沢市内をレトロなボンネットバスが走り、他にも市内の狭い道路を走る小型バス（金沢ふらっとバス）が三ルート、市民や観光客の足になっています。歌人や文化人の記念碑だけを回っても一日以上、美術館、博物館、工芸館、武家屋敷跡、お寺など回ると数日はかかってしまうくらいです。三十五年前に私が金沢にいた頃には想像もできないほどの変貌ぶりです。古いものを掘り起こして見事に観光化しているなと感心しました。病院や介護施設などの多いのにも驚かされます。遠く離れていて、久しぶりにもどるとその変化に目を見張ります。

先日豊橋の市長選で当選した佐原市長が三十五年ぶりに豊橋にもどってきてその停滞ぶりに警鐘をなげかけていたのを思い出します。地元にいると感じない変化、多くの地方を回ってきたからこそ感じる豊橋の現状を訴える話に頷いてしまいました。金沢と豊橋は以前は四万人ほどの違いでした。そんなに差はなかったように思います。県庁所在地であるかないかの違いはありますが、その変化のスピードの違いには驚かされます。産業も含めて古いものを生かした新しい活気のある豊橋が創られていくことを、新しい市長に期待したいと、あらためて感じます。

次回は、福祉村簡易郵便局局長江澤幸隆さんです。

冬を彩る



●なばなの里　ウィンターイルミネーション

編集後記

早いもので、今年も残すところ、あと二ヶ月となりました。さわらび会では今年も、医療と福祉を通じ、地域のみなさまの安心と安全を守るため、さまざまな取り組みをしてきました。さわらび誌では、そうした活動の一部をご紹介させていただきましたが、特に今年は、読者のみなさんからの声を、より誌面に反映させたいとの思いから、アンケートをさせていただきました。多くの方から激励のことばやアイデアをいただきましたこと、編集スタッフ一同大変感謝しております。私たちは、みなさまからのご意見を財産として、誰からも愛されるさわらびをめざし、感謝と謙虚な気持ちを忘れずに、がんばってまいりたいと思います。

（武田）

みんなの力でみんなの幸せを

2008年12月1日発行　早蕨　第428号

（昭和62年2月21日第三種郵便物認可）

充実した医療と福祉

- 特別養護老人ホーム **さわらび荘** ☎(0532)**54-3501**
  法人本部　豊橋市浪ノ上町7-2
- 特別養護老人ホーム **第二さわらび荘**
- ケアハウス **カサ デ ローザ** ☎(0532)**37-1209**
- 軽費老人ホーム **若菜荘** ☎(0532)**48-1138**
- 障害者支援施設 **珠藻荘** ☎(0532)**47-1050**
- 障害者支援施設 **あかね荘** ☎(0532)**48-2825**
- **福祉村病院** ☎(0532)**46-7511**
- 障害福祉サービス事業所 **明日香** ☎(0532)**46-6579**
- 福祉村障害福祉サービス事業所 **しろがね** ☎(0532)**48-1032**
- **福祉コンビニ**（東雲町） ☎(0532)**69-5666**
- **第二福祉コンビニ弥生** ☎(0532)**38-9090**
- **さわらび会障害者居宅介護事業所 田原** ☎(0531)**24-0722**
- 福祉村老人保健施設 **ジュゲム** ☎(0532)**46-7501**
- **田原市障害者生活支援センター**（市委託） ☎(0531)**45-3828**

社会福祉法人 医療法人 **さわらび会**

理事長　**山本 孝之**

編集責任者：武田和敏　　印刷：共和印刷㈱　　定価：100円

■表紙：新城市四谷地区千枚田